

老人短期入所施設における高齢者の生活史の研究

著者	檜谷 悦子
発行年	2010-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10422/467

氏 名	檜 谷 悦 子
学 位 の 種 類	修 士 (看護学)
学 位 記 番 号	修 士 第 1 3 9 号
学位授与年月日	平成 2 2 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	老人短期入所施設における高齢者の生活史の研究

論文内容要旨

※整理番号	139	(ふりがな) 氏 名	ひのき だに えつ こ 檜 谷 悦 子
修士論文題目	老人短期入所施設における高齢者の生活史の研究		
<p>研究の目的 老人短期入所施設を利用する高齢者の視点から生活史を明らかにすることである。</p> <p>方法 本研究は質的帰納的研究であり、64 歳から 98 歳の 4 名の老人短期入所施設を利用する男女各 2 名、介護度 2 から 3 の高齢者に、テーマを設定した生活史の面接を 1 から 3 回行い、生活史を作成した。作成された生活史から、高齢者の出来事や経験を時間軸上に配列して意味の一貫性のなかでそれぞれの年代ごとの物語を高齢者の言葉をもちいて作成した。平成 21 年 4 月 15 日に本学倫理委員会の承認（承認番号 21-123）を得て、倫理的配慮に留意した。</p> <p>結果 4 名の対象者に半構造化面接を行った。それらの質的データから、高齢者の現在の生き方や生活の編みなおしが抽出された。また、以下のことが明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者は視力障害、脳梗塞、老いを自分の体験として捉えている。 2. 高齢者は、自分の変わりゆく心身の状態に関心を持ち、自分なりの方法や考えで健康を維持、向上しようとする 3. 高齢者それぞれの生活史を貫くタイトルは、過去から今に続く高齢者の生きる姿勢である 4. 高齢者は困難な出来事を編みなおし生きる意味を見出し生きる。 5. 困難な体験から編みなおされた高齢者の生き方は、その生活の基盤となり、生き方を強化し、次の生活の編みなおしに関連していく。 6. 高齢者は主体的な存在であり、自らの価値観や生き方に基づいて生活を整える存在である。 <p>考察 4 名の高齢者から生活史を聴取した結果、高齢者は、自らの価値観や生き方に基づいて生活を編みなおしていることが示された。高齢者の語りは、人生を再評価する機会になり、高齢者が自己の意味世界を広げることに繋がることが明らかになった。</p> <p>総括 身体機能が低下する要介護高齢者は、自らの心身の状態に関心もちその変化を診断名や検査結果という客観的なデータからでなく、自らの体験やその人の生活のなかで捉える。そして、変わりゆくこの後の自らの生活を思い描き、それをこれまで培った生き方や生活の体験の中でより受け入れやすいように、高齢者は生活の編みなおしをする。その生活の編みなおしは、過去の困難な体験を基盤にしていることが示された。高齢者はそのようにして自らの心身機能の変化を受け入れながら生活を編みなおし、自分らしい生き方を選択し主体的に生きる存在であると考えられる。</p> <p>従って、要介護高齢者が老人短期入所施設に生活の場を移しても、より健康でその人らしい生活を営み、その人の持てる力を用いてこれまでの生活を継続する手掛かりを看護師が見いだす支援として生活史の聴取は意義があると考ええる。また高齢者が生活体験を語る機会に看護師が立ち会うことは、高齢者が過去から培ってきた生活を編みなおすプロセスに寄り添うことになり、その人らしさを支える支援になると考える。高齢者はそのような場をもつことによって生活の意味を拡張させることができる。これらのことから、老人短期入所施設における会話の可能な要介護度 2 から 3 の高齢者に生活史を語る機会を作ることは、その人がより健康で質の高い生活に向けてもてる力を見いだし、よりよく自分らしく生きるために生活の編みなおしの過程を支えるケアになり高齢者の発達課題の達成を促進して生活の質を高めることに貢献することができると考える。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。